

学校番号	12	学校名	袋井特別支援学校	校長名	岩附 祥子
------	----	-----	----------	-----	-------

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学びを支える環境をつくる				
1	安全性・機能性を踏まえた学習環境の実現	安全性と使いやすさの点から、廊下の整理が進んだ。	各学部で定期的に環境整備の場を設けることで、教室や廊下等の整理整頓が進んだ。 (学部A B評価 97%)	A	安全な学習環境づくりを考慮した整理整頓の意識が定着してきている。今後も継続していく。
2 ①	危機・安全への対応力の向上	いつでもマニュアルを確認でき、初動がとれる。	マニュアルをクラウド化し、いつでも見られるようにしたことや職員の初動訓練を実施したことで、初動対応が取れるようになってきた。(教職員A B評価 89%)	B	最低限対応に必要な簡易マニュアルを改訂する。教職員が更に初動対応ができるように各種訓練を行っていく。
2 ②	新型コロナウイルスへの対応の強化	感染防止策を遵守し校務にあたっている。	担当の呼び掛けや教職員全員が感染症に対し高い意識を持ち、感染防止に努めることできた。 (教職員A B評価 94%)	A	教職員が常に高い感染防止意識を持ち続けるように、引き続き定期的な情報発信を行っていく。
2 ③	安全な医療的ケアの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの基本的事項を理解している。(全職員) ・緊急時対応について保護者との共通理解が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの全体研修や(月一回の)学部会での研修を行い、教職員の医療的ケアに関する理解が進んだ。(教職員A B評価 82%) ・臨床研修や日々の共通理解の中で保護者と医療的ケアに関する対応や緊急時の確認ができた。医療的ケア対応マニュアルを見直し来年度運用に向けて進んでいる。(教職員A B評価 97%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに対する教職員の理解が進んだ。基本的事項の研修会は今後も継続していく。所属学部・学年の児童生徒の医療的ケア内容について学部会等を通じて推進を図る。 ・改定マニュアルを運用する。共通理解と非常時の対応に生かせるようにする。
3	教職員の高い人権意識によるより良い学校風土の醸成	多様性を受容する姿勢をもって人と接している。	9月に行った人権研修や学部会での定期的なスマイル研修で人権意識を高めることができた。 (教職員A B評価 100%)	A	人権研修やスマイル研修、人権チェックを行うことで、人権感覚の高まりが見られる。今後も継続していく。
4	年間指導計画の見直しと効果的な活用	大切なこと、5つの視点、つながりを踏まえた計画を作成し指導を行っている。	目指す児童生徒の姿を基に、学びの積み重ねや各教科等とのつながりを意識して指導できた。(学部A B評価 80%)	B	教科横断的な学びの見える年間指導計画の様式に全学部で統一して作成し、指導に活用していく。
5	ICT活用による校務の効率化	ICTの活用によって、授業準備・分掌業務等に費やす時間が短縮した。	<ul style="list-style-type: none"> ・配付物のデジタル化による印刷物の削減や教職員へのアンケートにGoogleを活用することによる集計業務の削減が図られ、教職員の事務業務を行う時間を有効に使えるようになった。 ・ICT機器が整備され環境が整ってきた。校内研修も進み、ほとんどのクラスでICTを活用し 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することで教職員の公務の効率化は一定の成果は得られた。全教職員が活用できるように、今後も研修会の実施や、ICT環境を整えるようにしていきたい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
			た授業を実施できた。(教職員評価A B 79.7%)		
6	学校課題を踏まえた短中長期的な予算計画の策定と予算執行	課題を見据えた予算計画を策定し、効果的な予算執行ができた。	校内への周知に努め、急な案件にも対応しながら課題解決をし、効果的な予算執行ができた。(教職員A B評価100%)	A	教職員への理解を得ながら予算執行ができた。更に保護者のニーズにも対応できるようにしていきたい。
7 ①	教育公務員としての高い倫理観の維持	「信頼される教職員であり続ける」との意識を持ち、常に行動をしている。	定期的な職員研修と継続的な注意喚起により、教育公務員としての意識を高めることができた。(学部A B評価97%)	A	全体的な意識の高まりは感じるが、個人差があることが課題である。
7 ②	働き方改革の推進	自分で使える時間を効率的に活用して、時間外勤務が前年と比べ減った。	学部ごとに実践検証をすることによって、自身の働き方に関する意識が高まり、時間外業務が減ってきている。(学部A B評価78%)	B	効率的な時間の使い方を考えて仕事をする職員が増えてきた。
イ	学びを積み上げる授業をつくる				
1	深い学びへと導く授業づくり	深い学びを実現するため、何をどのように学ぶかを大切に授業展開している。	どのような課題を設定し、児童生徒が何を学ぶのかを検討し、授業展開を工夫することができた。(教職員A B評価93.5%)	A	単元の展開の工夫について、教員の話合いが充実してきている。次の学びへのつながりをさらに考えたい。
2	各教科等を合わせた指導の授業力の向上	学校生活上の課題をとらえて単元を設定している。	各教科等を合わせた指導についての学習会を、各研修グループで行うことで、理解を深めた。グループ毎に児童生徒の実態や関心に合わせた単元を設定することができた。(教職員A B評価98%)	A	単元途中や終了後の振り返りを通し、児童生徒のあらわれを受けた授業改善ができてきている。今後は、評価の充実を図りたい。
3	国語・算数(数学)の継続した指導の充実	「目標・内容の一覧」を基にした内容に取り組み、評価を次へとつなげている。	ラーニングマップについて、外部講師を招いて学習会を行うことで、学習の目標や内容に根拠を持って指導する教員が増えた。(学部A B評価83%)	B	ラーニングマップについての学習会で理解が深まった。ラーニングマップを活用した指導が進んできているため、次年度も学習会を行い、継続した指導を充実させたい。
4	自立活動への理解と指導力の向上	6区分27項目を基に実態一課題一支援を設定し、課題解決に取り組んでいる。	自立活動学習会を年3回実施したり、外部講師を招いての研修を行ったりして、教員の自立活動への理解が深まってきた。(教職員A B評価83%)	B	定期的な学習会や外部講師研修等で、自立活動に対する教職員の理解が深まった。今後も自立活動研修会や学び便りなどでフィードバックしていき更なる理解を深め、教職員評価100%を目指したい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
5	自己実現を図るための12年間のつながりのある指導の実施	“人間ならではの感性”を踏まえて目標設定し、指導をしている。	各学部・グループで設定した目指す児童生徒像に迫るために、日々の授業づくりに取り組み、児童生徒の成長が感じられた。(学部A B評価 96%)	A	児童生徒が元々持っているよさに気づき、よさを伸ばし、よさを磨く指導を学校地域社会全体の力を借りながら実践していく。12年間のつながりのある進路指導、防災教育等を行う。
6	OJT等を含めた研修体制の再構築	研修で学んだことを子供の成長につなげることができている。	年度初めを中心にスタートアップ研修、定期的なOJTだよりの発行、相談体制づくりなどを行った。若手の育成と共に指導する教員も、自分の学びにつながったなどの意見が出された。(学部A B評価 96%)	A	OJTを意識する教職員が増え、学んだことをすぐに指導に生かすことが増えた。今後も、日常的なOJTを推進していく。
7	子供たちがICTを活用する機会の確保と活用への理解向上	ICTを活用して、子供たちの学びを深めることができてきた。	学習に使用できる学習アプリをipadに入れ、児童生徒が使用できる状態になった。教職員には、ICT活用について掲示板(23回)を通じ理解を深めた。(教職員A B評価 88%)	B	環境整備をしたり、教職員への研修を行ったりすることで、学校生活でICTを効果的に活用する場面が増え、学びを深めることができた。今後も継続していく。
ウ	学びを豊かにする心と体をつくる				
1	他の人との関わり、集団や社会との関わりに関すること等、道徳心の育成	自ら挨拶、ありがとう、笑顔を心がけ、子供たちにもその大切さを伝えている。	『あいさつ運動』の実施や日々の指導により、挨拶の大切さを子供たちに伝えることができた。(学部A B評価 92%)	A	校内での挨拶は出来るようになってきているが、社会や地域に出た時に挨拶が出来るかが課題である。
2	健康・安全への意識・知識・行動力など、命を守る力の育成	体力・清潔・感染症予防等への理解と行動を高めるよう指導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症を含めた感染症対策を行った上で、教育活動が実施できた。また、保護者の感染症に対する理解も深まり、協力体制が図れた。(教職員A B評価 99%) ・コロナ禍で運動制限がかかる中でも、できることを模索し指導ができた。今年度より、全学部で性指導に取り組み始め、12月に外部講師を招いた研修会を行った。(教職員A B評価 96%) 	A	コロナ禍で制限はあるができることを模索し教育活動が実施できた。今後も感染症対策を行っていく。性指導は年間計画を立て、児童生徒の実態に合った積み重ねのある指導を実施していきたい。
3	自他を尊重する心情と互いに認め合う態度等、人権感覚の育成	自身の意見を述べる、他者の意見を聞くなどの機会を確保している。	『ありがとうを伝えよう週間』を年2回実施し、教職員も児童生徒も、ありがとうの場面に気づいたり、気持ちを発信したりする機会になった。教職員向け人権チェックを年2回行い、自分自身を振り返る機会になった。(教職員A B評価 96%)	A	『ありがとうを伝えよう週間』では、教職員、児童生徒共に意識して気持ちを伝えることができた。今後は、周りの教員や児童生徒に対して、ありがとうの言葉を積極的に掛け合う集団を目指していく。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
4	表現方法の獲得と表現する喜びを味わう経験による表現力の育成	表現の喜びを味わえるよう様々な素材、表現等に触れる機会を確保している。	限られた時間や感染症対策の中で、様々な素材や表現方法を取り入れた授業が行えた。(教職員A B評価 96%)	A	表現作品を喜び、認めてもらう場を校内の作品展示ばかりでなく、地域の作品展への出品も行っていきたい。
5	読書活動を通じた感情や情景を読み取る力、表現力、想像力等の向上	お話を聞いたり、本を読んだりする機会の確保や働きかけをしている。	本に親しむ週間(年間2回)を開催し、お勧め本や教師による読み聞かせ会を実施した。また、毎月図書コーナーの本も更新した。掲示板でお話会ワンポイントアドバイスをし、教職員へ情報提供を行った。(教職員A B評価 84%)	B	学級内での読み聞かせや図書コーナー利用など、本に親しむことができている。来年度も本に親しむ週間やお話会、ワンポイントアドバイスなど継続していく。
エ	学びを広げる関係をつくる				
1	地域で生きる土台をつくるための交流活動の充実	交流の意義への理解が高まり、打ち合わせや実施がスムーズになってきた。	交流籍校交流の取組では、実際に交流籍校に訪れての直接交流の他、オンライン交流、手紙交流など今できることを相手校と相談して行うことができた。(教職員A B評価 97%)	A	コロナ禍でも工夫した交流ができた。直接交流と間接交流の二つの案を考えながら、途絶えることのない交流を継続していく。
2	関係機関との連携による個別案件への対応の強化	関係機関双方向からのアプローチがみられ、スピーディな対応ができてきている。	継続支援会議は随時行い、新規支援会議は主訴や課題を整理しながら行うことができた。コロナ禍においては、オンラインにての会議を行った。(教職員A B評価 100%)	A	支援会議の必要度は高くなり、オンラインでの支援会議は有効であった。今後も集合会議、オンライン会議などを機関と相談しながら、有意義な会議を実施していく。
3	個別の教育支援計画・個別の指導計画の効果的な活用	P D C Aを回す時間的ゆとりが生まれ、関係者との共通理解が高まった。	個別の指導計画は、新たな様式となり、教務課よりP D C Aの各段階で必要な説明を行った。担任間で十分に話し合って作成し、面談時には個別の指導計画を基に保護者に目標や手立て、評価を説明し、共通理解できた。(学部A B評価 92%)	A	個々の児童生徒に対して適切な支援を行っていくために、個別の教育支援計画と個別の指導計画を指導の柱に据えて、具体的な目標や指導方法等を考えていく。
4	積極的な情報発信による外部機関、地域、保護者等とのつながりの強化	情報を受け取る側にたったタイムリーで分かりやすい発信ができていく。	作成から決済までの仕組みを分かりやすくしたことや学部の年間計画等を意識することで、タイムリーな発信をホームページ上に掲載することができた。(教職員A B評価 93%)	A	今後も、スピードと正確さを考えて、ホームページ掲載に取り組んでいく。児童生徒の作品をすぐに載せられるように計画をしていきたい。
5	子供をど真ん中に置いた本校と袋井市の双方向からの支援の充実	本校から袋井市へ、袋井市から本校への支援のしくみが構築されてきた。	今年度一年間の取組により、相談、研修の仕組みづくりを完成させることができた。(教職員A B評価 91%)	A	袋井市の教員も本校職員も地域連携の意識を高めることができた。今後も継続していく。